

埼玉の山を甘く見ると危険です。

近年、山岳遭難事故が増えています。

登山ブームで「高齢者」や「山ガール」、「若者」の登山者が増えています。山岳遭難事故も増加しています。

警察庁の統計では、平成28年の全国の山岳遭難者の約8割が40歳以上の中高年です。60歳以上は5割も占めています。

埼玉県内の山、特に両神山など奥秩父の山は、谷が非常に深く、大変滑りやすく、危険箇所が数多くあります。滑落事故や転倒、道迷いが毎年頻発します。

このようなところでは、遭難者を発見することが極めて困難になり、発見できても避難場所によっては救助が行えないところもあります。

危険箇所をよく調べて、信頼できるリーダーのもと登山をしないと取り返しのつかないことになります。

これから迎える夏山の時期は、樹木がうっそうと生い茂り、上空からの発見が極めて難しくなります。

また、場所によっては上空からの救助ができない場合もあります。

埼玉県の山は、「手軽な山」というイメージを持たれる方が多いかと思いますが、県内は急峻な山が多く、軽装、無計画による事故が数多く発生しています。

秩父の山にハイキング気分に入ると、命の危険にさらされます。

どのような山に行く場合にも、正確な情報に基づいた万全な準備が肝心です。

また、中高年者は自分の体調や体力・己の技量とよく相談して山に入らないと命に関わります。

そもそも登山は、自己責任・自己完結で行うものです。そのために単独登山ではなくパーティを組むわけです。

山歩きにおけるリーダーの役割は、メンバー全員を無事に下山させることです。自分

が登れたからといって他の人が登れるとは限りません。

リーダーに求められる資質は、体力や山歩きの経験だけでなく、様々な配慮や知識など山に関する総合的な造詣が必要です。

最近、中・高年グループの山歩きが盛んですが、山歩き案内に「何々駅集合」という形式が多いと聞きます。

自分の登る山をよく調べもせず、これでは連れられ山歩きです。登山前に、リーダーを中心に準備会を行うか、参加者が資料をもとに、その山についてよく調べておく必要があります。

特に、中高年にとって両神山の鎖場は大変危険です。ここは滑落事故の多発区域です。

登る山をよく調べて、過信せず、力量にあった登山をしないと自分ばかりではなく他人の命を危険にさらすことになります。

具体的な注意事項

遭難者の多くは、天候に関する不適切な判断、不十分な装備で体力的にも無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力等の不足から発生しています。自分の力量に応じて身の丈にあった登山計画を立てる必要があります。

■登山計画書の作成・提出

気象条件、装備、食料、体力、体調、登山の経験と山の選び方、登山コース、日程等に配慮して余裕のある安全な登山計画を立てる。

また、単独登山はできるだけやめて信頼できるリーダーを中心に複数で登山を行う。作成した登山計画書は、家庭や職場、最寄りの駅や登山口の入山ポスト、近くの交番・駐在所に提出する。

■危険箇所の把握

計画を立てるときには、滑落や道迷いなどの危険箇所について綿密に調べる。

■状況の的確な判断

視界不良や体調不良時には、滑落や道迷いなどを起こす恐れがあるので、状況を的確に判断し、早めに登山を中止するように努める。

■滑落・転落の防止

滑りにくい登山靴等の着用、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく、常に慎重な行動を取る。

■道迷いの防止

地図とコンパスを有効に活用して、常に自分の位置を確認するようにする。

■十分な危機意識と事前の情報収集

天候などの事前情報収集をしっかりと行い、必要な装備品の準備を行う。

たとえ日帰りの予定でも、何らかのトラブルにより山中で夜を迎える(ビバーク)ことを想定した準備を。

■単独登山を避け、経験豊富なリーダーを中心としたパーティ編成

■体力・技術に合わせた登山ルートの設定、時間的に余裕のある登山計画の作成(早出早着)

■基本的な装備品の携行・活用(地図、コンパス、雨具、照明具、非常食、登山(沢)靴など)

■万全な体調での入山

■遭難を想定した危機管理能力(セルフレスキュー)の向上